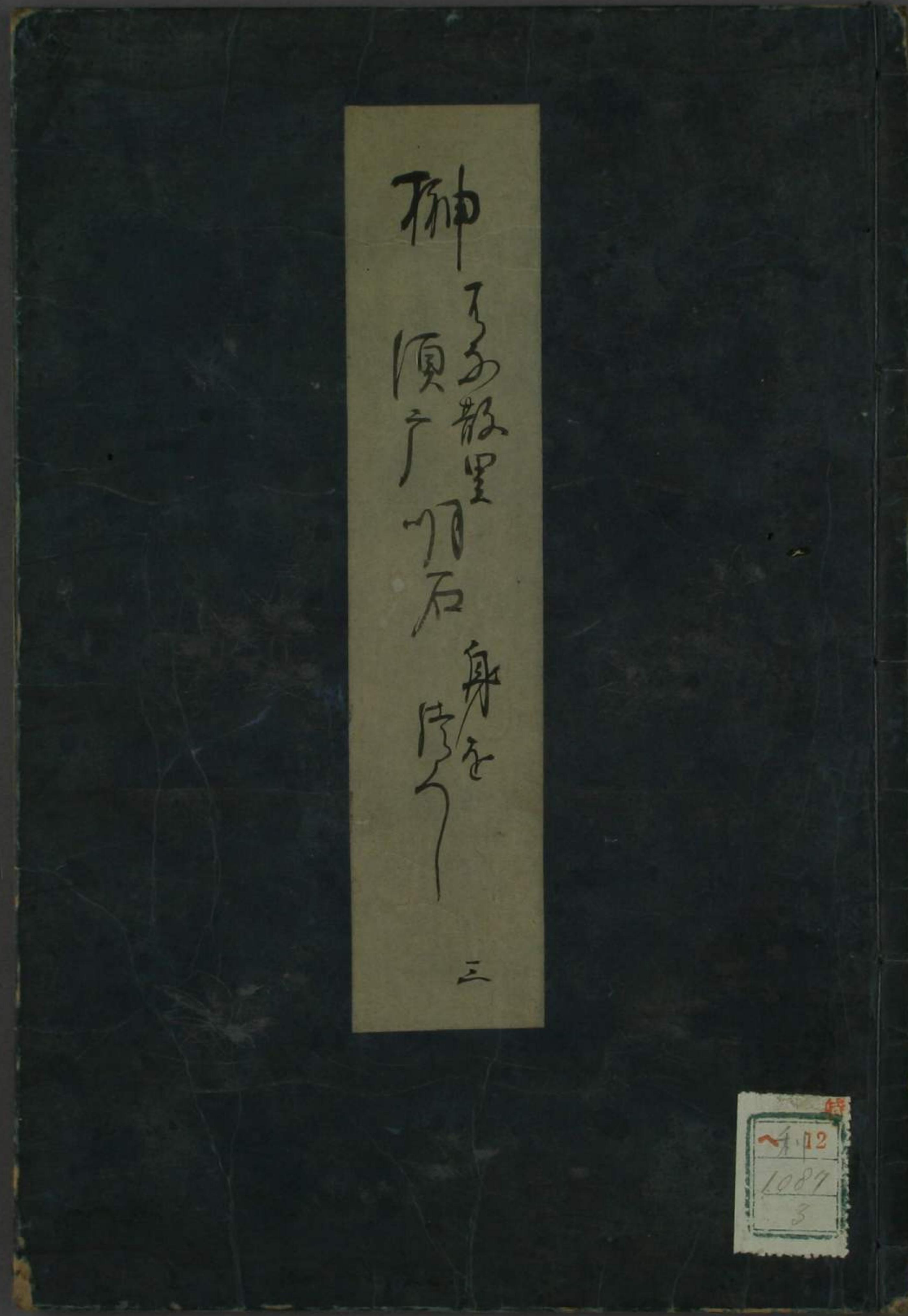


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN



印
廣雅圖說

卷一



卷 1987
3



源氏物語

卷之三四

沙木

花落里

波子

みとまう

もとまう

花落里

花落里

花落里

南

私學宮

六条院

御室

三

御室

花落里

御室

御室

御室

御室

御室

御室

御室

し女の表にさへひき

あさね

二條文政本草 常識室

三恆安寧——文觀之

卷之三

阿闍梨

四
行
事
記

蓬生若

弘徽殿大司馬

休与女

周易

卷之三

五君

卷之三

勝負參同

奇天神の御所にあらゆる事の出来事の内に、

中之奇處不外乎此矣
一切之奇處在於此矣

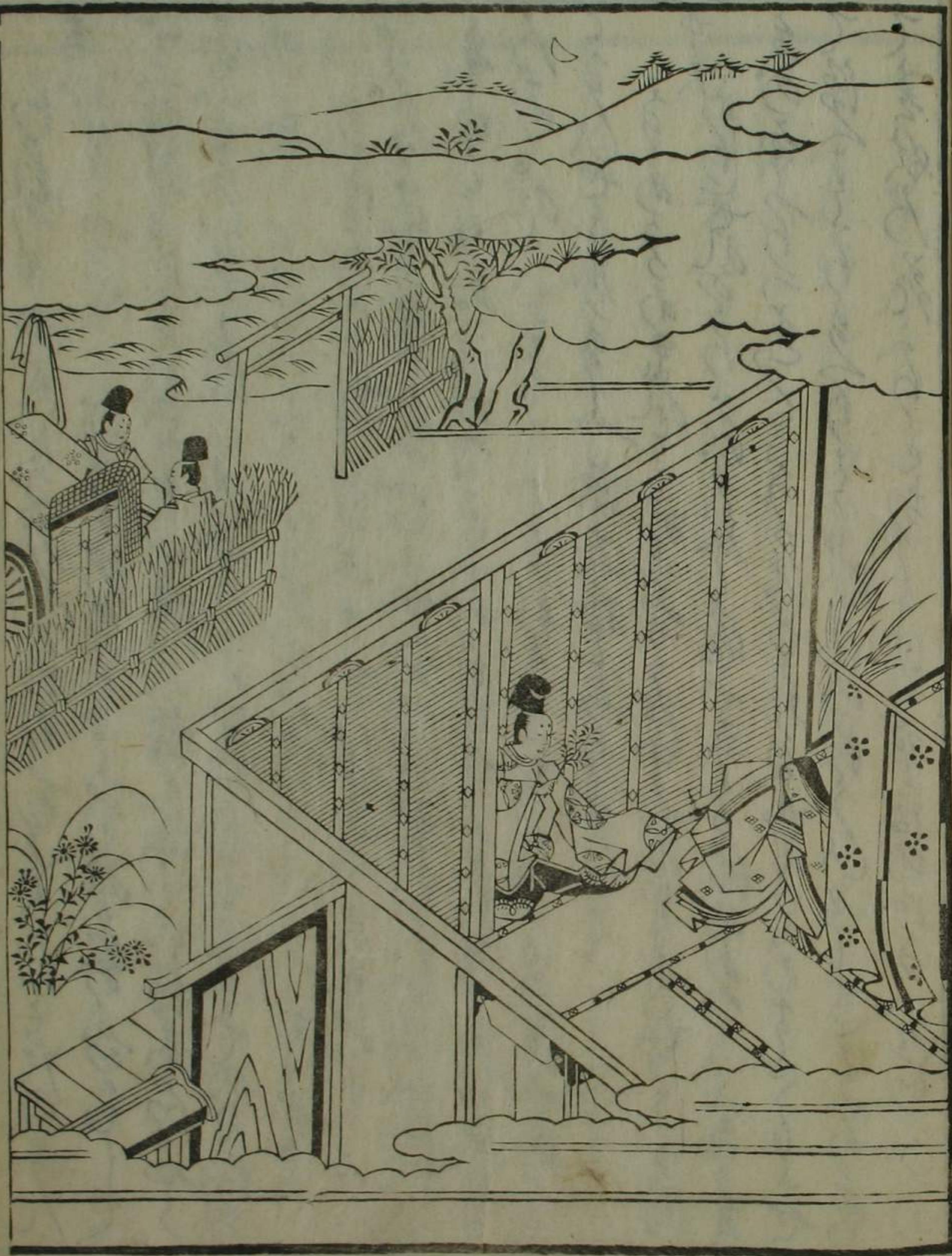
本草綱目

江 之 本

原文二章より改寫す

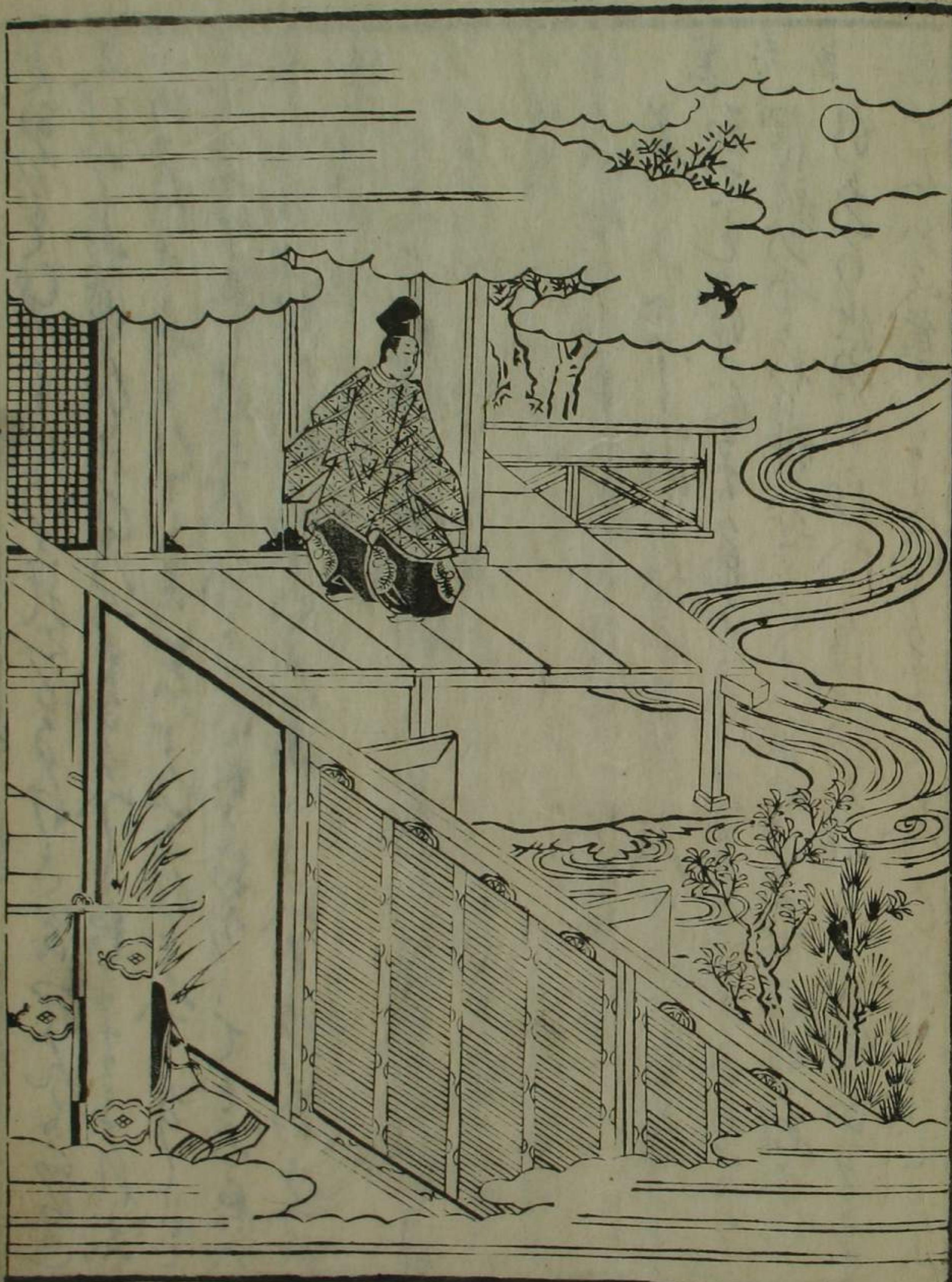
御内閣の松とおれあらそ
原山の松の木もまたもとより
あらそ

晴天の秋の日もあがむとて秋の日も
ええ大の秋の日もあがむとて秋の日も
奇きものとて秋の日もあがむとて秋の日も
ききとて秋の日もあがむとて秋の日も



わくかくのまことれどよめあれりとつむとたのきん
あくまうす程ひけきてひめうちなみをれりあくまうす
才二月才日あまつりやまの所へ傳へゆくのねあつるや
ふみそくらもさゆくのやくめうらりけりゆもその日だ
浦幸とけりうさんとせせぬとせよとせよとせよ
除良れもじき翁とひてきくたひせのやくにわくとせよ
まちきのうなうてひくたうはせぐもしれのき
年わくまちねおの内よりあくまうりゆくまくまく
乃あれもいとくわくわくわくわくわくわくわく
もくひせき翁ゆく浦幸あくまうりゆく
うきあくまうれとみくらひくまくまく
まわせりせあくまうれとみくらひくまくまく
まのあくまうれとみくらひくまくまく
て浦幸あくまうれとみくらひくまくまく
でまくまくまくまく

ちりと落つよ小あよあのまくらをくわうる
とゆれみとよりて
とらそりえをせりぬ財なるのこひ家れまよ
財もかくぬ教ひをれまとあかめりうかみけれま
余がほのあひきり三のまへねまくらよありやまくらす
浦れむくわくもゆくらりうりうり人升ればさくら
くに郭ふわりうつううのやあうらあよう
たちまがまくらうくに郭ふわらう壁とくすとくふ
みくわくらるるがんじがんじを教のつまくら
とゆ
余がお令すりの年とて



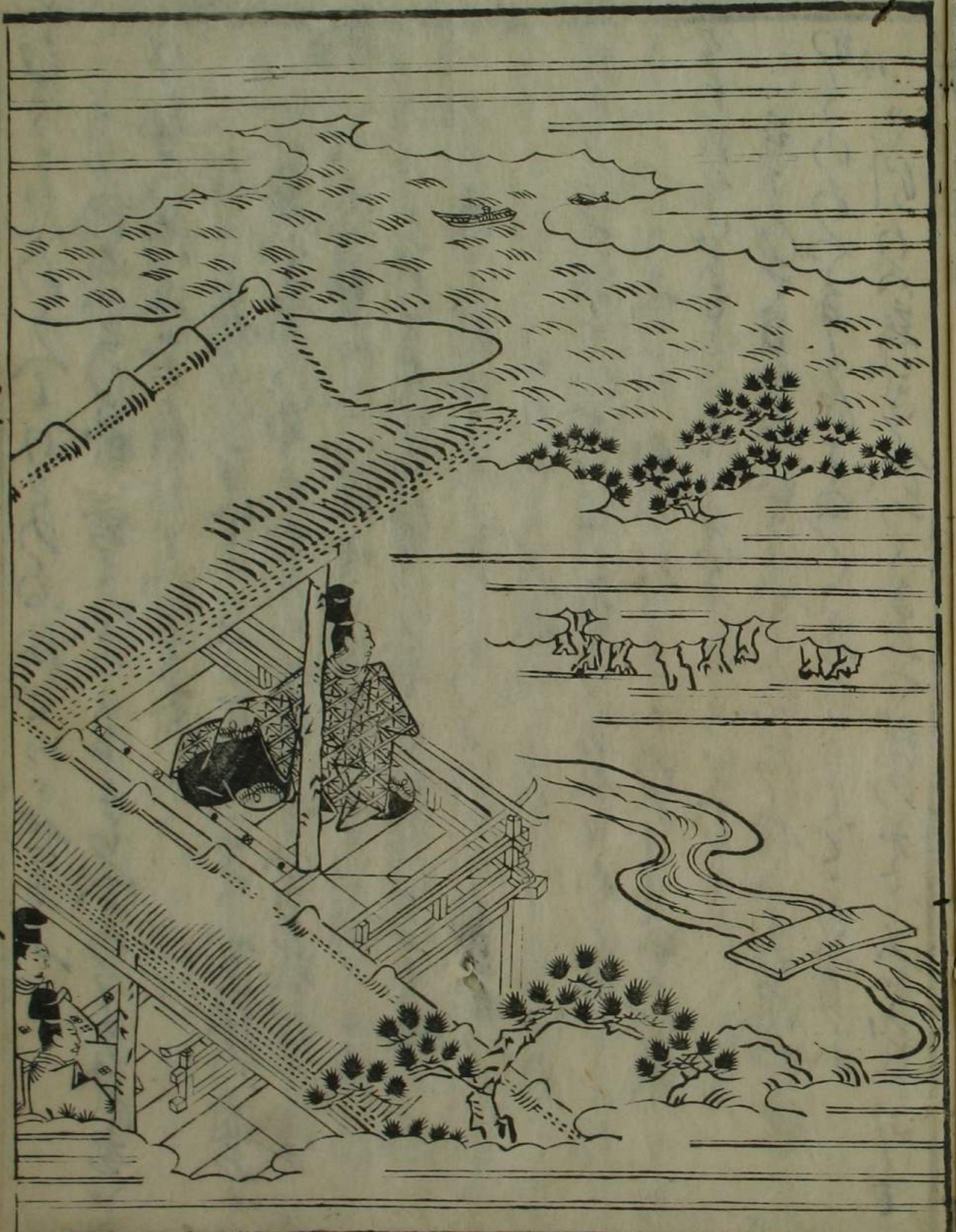
ちの間は機知をもつてあまのあややかさを
えらぶのであれば、うるさいと色を付けて
二度見ようたりきといふことじつにあつて
ひがひがしくはたらきうちひひ
あはれそすすめのまわらひゆく後のはづきがれ
集めてこそうむじにまよひゆかひくとくもあまきあてす
おもろいはなれども、神をせもとめどもあわねえと
ほのかうれしの音節のまづやんすかうあ
あくまくのうたをうるさいと見ゆるのをあ

卷之三

わをすくはの月のうらやましきむすめさん
きくはるあかねをはなへまじてほのかさん
おうが入道のまゝありたりともゆえ
ひもあわふかのとせみそどもじよりもあくわ
あまにかくまづくはれとせせのくわくわ
自ずらてゆきふれどもとへんから馬あわすまの
くわくわんがさくはる乃くわくわ
りつまくあひくまのまくらしむのうえ
はなせとくらうくわんとがくわくわ
おほくわくらうくまくらうくわくわ
をくわくらうくまくらうくわくわ
うくわくらうくまくらうくわくわ
うくわくらうくまくらうくわくわ

告てさらふうけをゆまひの船の船からりうちよ
 じらはれうて係り
 つけのあまびそせせらて金くにわかさりけふ
 きおれぬ食ひてあかうよあきらうとめてしきれ
 あよりひとん風もひとねうもうときよ保
 日かゆるなみゆけうなりとめ未よまめあるとせん
 古風の鹿鳴うとくひりを角で射う
 狂歌中うんづりゆきとくひりを角で射う
 ちくえうりたれ

まへ人出へてきとて入遣ひえ
 松鷹のあまれ草やどくが金魚の浦金りうきあ
 きのうのうのうの浦りうき
 きのうの浦うきあめ浦うきあめ浦うきあめ浦うき
 金魚の浦うきあめ浦うきあめ浦うきあめ浦うき
 金魚の浦うきあめ浦うきあめ浦うきあめ浦うき



ひくはるか下りるるゆごとせり
うのまくひ神風のよきもとす
伊勢守はれいとよきもとす



月 うきえをめよ報さむひる金のまくら
 なからひのとてうく暁ひのれあれまよ
 年うりてりうれそくられとめうて
 宅相がハねのありくちくありてはすへあら
 はくくとくまのまびとくもくとくわたりよ
 事あくよりれどよとあまの花の放にまくとく
 佛とくりよく馬とくちくのり
 はくくとくれどよとくみよがま見ひりうれ
 宅相くくくれくとくとくみよがま見ひりうれ
 うくあざりくとくとくとくとくとくとく
 日のとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 りておよりくとくとくとくとくとくとくとく
 はくほりた風のあよがれくひくとくとくとく
 やとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

原大東音よりおとせのあまて
うれし氣分やうに仕事ありて日暮れす
多うござりあつたる事あつてめぞり
かくわくと二事だよつめぞりとくわん
あらうりゆくことわらうのゆくよ
傳承は今もまだあるが
傳承は今もまだあるが

そよぐの風もすまのまゝか
育ち育む所ありあらまきの所羨み
おほれりきわくとあらまきの所羨み
見ゆるてをきかへゆゑあらまきの所羨み
うなづくとあらまきの所羨み
枝葉の緑をうめやけ
今まろひてあらまきの所羨み
わざわざゆめりもてうめやけ
教わるありあらまきの所羨み



は
きくちにねめ事かうととくをあねてやけでせん
道きのからまへせつけとのきへてとれ
日おとくいりよりと酒はよからひゆふ
あり年つるをわれてうれとだほ
含らはよたらかみうち旅本多かじ
かわらあそびてうけあひとの日教てさんやれ
合せぬくらまくらまくらまくらまくら
はがきのうけまくらまくらまくらまくら
毛かくらまくらまくらまくらまくら
内よありうじて山ね張よもととく
年わらまくらまくらまくらまくら
浦あれめくらまくらまくらまくら
あくらまくらまくらまくらまくら
きくらまくらまくらまくらまくら

近づけぬせむちゆきしよめう見
も爲る所れどかくもあやそをさう神祇をもわ
りそぞくまよせよとおほりかうれ秋のひづりと

卷之三
原文七八九

